

参加者について

栗井 優衣

栗井優衣さんは、早稲田大学文化構想学部在学中の4年生です。

脳性麻痺をもち大学のため東京へ移るまでは、四国地方の香川県の学校へ通っていました。早稲田大学に通い障害学生支援室での活動に参加している傍ら、東京大学の先端科学技術研究所に設置してある DO-IT プログラムに携わっています。米国ワシントン州立大学のプログラムをモデルとする DO-IT Japan プログラムは、障害のある学生の進学支援やリーダーシップとアドボカシーの育成支援を行っています。優衣さんは現在 Do-IT プログラムでのインターンシップを通し、障害に対する認識やアドボカシー、そして自己決定について学んでいます。



TOMODACHI 研修生として、優衣さんはアメリカの大学での障害学生支援について興味があります。障害をもつ学生達がどのようにしてアドボカシー能力を取得し、学生達の自己決定と自立を促す支援室の活動内容などを学ぶ計画をしています。

高田 朋美

高田朋美さんは現在ネットワークエンジニアとして東京にある Avinton Japan で働いています。就職前には、ハワイの Kapli'olani Community College にて社会科学を専攻していました。今でも、いつかソーシャルワーカーになる夢を抱いています。

大学在籍中、自転車での大きな事故に遭いました。手術は成功したものの、怪我が悪化し股関節壊死へと進行し、歩行には杖が必要となりました。朋美さんは怪我をして以来、障害者と健常者はお互いに認識と理解不足のため、違うコミュニティにいると感じていました。障害者と健常者が共に暮らすインクルーシブなコミュニティを作りたいと強く思うようになりました。



TOMODACHI 研修生として、朋美さんはテクノロジーがどのようにして障害者の自立生活に影響を及ぼしているのか学びたいそうです。更に、環境と学習に関するユニバーサルデザインが多くの人々にとって利益がある点についても学ぶ予定です。

工藤 登志子

工藤登志子さんは、東京の立川 **Independent Living Center (ILC)** にて働いています。13歳の時に筋ジストロフィーとの診断を受け、障害問題に熱心な提唱者です。

立川 ILC では、関連する多くの情報やリソースを提供し障害者の自立生活を促し改善することに努めています。また、小中学生を対象に定期的に障害への意識や理解を広める活動にも力を入れています。

TOMODACHI 研修生として、登志子さんは交通機関や建物などのハード面のアクセシビリティと、人々の障害者への理解と接し方について学ぶ予定です。また、障害リーダーがどのように活動を広げているのか、アメリカの障害者運動の輪の中に入り学んでいきます。

